

まなびの広場
稲進会
教室通信

彩色いろいろ

『効率の良い勉強法？』

「うちの子、勉強の方法がわからないみたいなんです」で「効率の良い勉強方法、成績にすぐつながる方法を教えてやってください」と言ったご要望をうけることがあります。

聞くたびに、正直思ってしまうのが、「そんな虫のいい話しはないですよ」です。誰しもに共通する絶対に正しい勉強方法なんて存在しません。

あれば誰も苦労しません。

ダイエット法に絶対的なものなんてあるのでしょうか？ ネットでダイエット法を調べれば無数に存在することがわかります（経験者談！）。小学校では、1日3食きちんと食べましょう！と教わりました。それが、1日3食は食べ過ぎで1日1食がベストなんて説もよく耳にします。

食べ過ぎは良くないとか身体を動かしましょうと言った、誰もがそんなことわかっている、というレベルのことならば、絶対に正しいと言えるものもあるかもしれません。

勉強なら集中して！とか問題をよく読んで！というレベルなら、絶対大事！と自信を持って言えます。

ですが、細部は個人によって異なるものです。

高校時代、赤い下敷きのようなものをかぶせると重要語句だけが見えなくなるという問題集がクラスで大流行していましたが、僕は全然使えませんでした。ホリエモン（東大）は大学受験の英語は、とにかく単語を覚えることがポイントと言っています。僕は、文法が大事と考えます。

勉強法は人によって異なるものであるということを前提として考えるべきなのです。

人から教わった、耳にした方法が自分に合っているか否かは、その人自身が実践し効果を確認するしかないのです。

子どもに伝えるべきことは、「いろいろな方法を試して見よう。その中で何が自分に合うのか考えることが大切だよ」です。

自分で考える習慣が身についている子どもは、将来社会生活の中で問題に対峙する際も、どうしたらその問題を解決できるのか？ そのために自分が学ぶことは何か？ どうすれば必要な技術は身につくのか？ そうしたことを自分で見つけられます。

社会で出会う問題には、ほとんど前例がありません。先の予測もつきません。思わぬところから、思わぬ時に出くわすものです。

社会に出る前の時期に、勉強をという場で自分に合った方法を自分で探ることは、問題解決力の下地を作ることになるのです。

大人が、そんな方法はダメだ！ ああしなさい！ こうしなさい！ と先に決めてしまうこと、またはこの方法が一番だ！ なんて言うってしまうことは、子どもから問題解決力を育てるチャンスを奪うことになるのです。

奥松

教室の風景

回復を祈って

今年に入りこれまで一人住まいをしていた86歳の祖母が、新年早々転倒し入院してしまいました。この先1人での生活は無理と医者から告げられ、あれよあれよと言う間に祖母はとりあえずある施設に入所することになりました。入所してからこれまた病気が見つかり緊急オペにと本当にこの2ヶ月で86歳じゃついていけないでしょ〜っというくらい病院、施設を転々としてきました。ようやく最近落ち着きつつあります。

ある時、祖母に「人生の中でいつが一番幸せだった？」と尋ねると、「今かなあ〜」と何とも言えない素敵な笑顔で答えてくれました。理由は「みんながこうやって、しょっちゅう会いに来てくださるし、これと言って不自由なくいられるからね〜」ですって。

もう自力での歩行は厳しく、ほとんど寝たきり状態なのですが、帰り際に、「そういえば、旅行いつ連れてってくださる〜？」と私に。あー、忘れてた！手術前、無事に手術終わったら旅行行こうねって言ってたんだあ〜！！でもまだ管つながってて無理ですから。

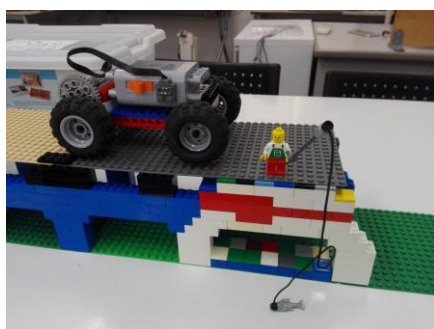
「もう少し良くなったら温泉連れて行くからね」と、旅行のパンフレットを置いてきました。

祖母ともう一つ約束をしてるんです。それは私の娘の花嫁姿を見てもらうこと。今のところ彼氏というフレーズは娘から一度も聞いたことがありません。婿さん探しも頑張らなきゃ！！



インストラクター 山本英美

3月作品紹介 ジュニアクラス作品発表会



- (左上)「鬼の王様」
- (真ん中上)「頑丈な橋」
- (右上)「キラキラのお城」
- (左下)「遊園地」